



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	巻頭言
Author(s)	宮脇, 淳
Citation	年報 公共政策学, 5, 1-1
Issue Date	2011-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/47745
Type	other
File Information	APPS5_001.pdf



巻 頭 言

2010年、日本では政治の混沌状況が続き、衆参、そして国と地方の与野党捻じれ現象の下で政策の揺れが続きました。2011年春には統一地方選挙が行われ、地方政治の新たな勢力図が描かれることとなります。一方で日本の経済は2008年秋の金融経済危機による最悪期から脱却する過程にはあるものの、新興国の台頭など世界経済のパラダイムが大きく変化する中で経済金融を通じたグローバル化への政策的対応はまだ途半ばに過ぎません。また、アジア経済でのパワーシフトが進む下で日本経済をいかに位置づけ政策展開するのかの海図をも未だ明確にできないでいます。そうした中でこれまで日本が蓄積しさらに進化し続ける科学技術を社会システムと一体化しアジア等グローバル社会に展開する時代を迎えています。

混沌状態は、事の良し悪しを意味しません。混沌状態から脱し次の新たな経済社会の秩序を生みだせるか、それとも混沌状態の長期化から経済社会が混乱へと陥るかは、政治だけでなく国民を通じた公共政策議論の充実に大きく依存する分岐点に位置しています。新たな経済社会を創造する過程において公共政策の議論が果たす役割は飛躍的に高まっています。そこでは、政治、行政そして一定の業界を通じた限られた利害関係間の閉ざされた調整ではなく、民間企業、市場、住民等多くのステークホルダー間での開かれた高度な利害調整、そして個別のニーズを無秩序に受け止めるポピュリズムに陥ることのない明確な価値観を共有した創造的政策の展開が不可欠となります。

こうした創造的政策を生み出す場として弊学公共政策大学院は、法学研究科、経済学研究科、工学研究科の協力の下で文理融合、理論と実践の架橋をテーマに北海道から日本、そしてアジア、さらには世界の抱える今と将来の課題を見据えた教育、研究活動を展開しています。加えて、地域との連携を深め実証的研究を積み重ねると同時に、思想、歴史を深めることで普遍性のある政策思考の理論的研究を展開して行きます。

本年報もそうした創造的政策展開の広く開かれた場として位置づけています。本号も2010年6月26日に（財）北海道環境財団の共催を頂いて開催したシンポジウム「北方の文化と環境再生、生物多様化～北海道の環境政策～」をはじめとし、社会福祉、年金、官民連携等の幅広い分野の論文を掲載したほか、麻生元総理大臣の秘書官を歴任され現総務省自治大学校長である岡本全勝氏にも行政改革に関する論文を特別寄稿していただいています。多くの方々のご協力で本年報を刊行できたことに厚くお礼申しあげるとともに、今後とも変わらぬご支援とご助力をいただきますようお願い申し上げます。

2011年 3 月

公共政策学研究センター長

宮脇 淳